

東京国際クルーズターミナル 海の日記念行事 2026

7 月 20 日、東京国際クルーズターミナルで「海の日記念行事 2026」が開催され、松浦満晴組合長が出席した。「海の日」は「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」。

開会式では、はじめに赤間二郎内閣府海洋政策担当大臣が、海の日が制定された経緯と、海洋国家日本として今後も海洋政策を進めていくと開会のあいさつを述べた。

続いて主催者を代表して高市早苗内閣総理大臣が「日本成長戦略では、海洋造船、港湾プロセステクノを戦略 17 分野に位置付けており、官民投資ロードマップに基づき、海洋ドローン、南鳥島周辺海域におけるレアアースの資源開発、次世代船舶などの国内投資を加速させていきます。また、地域未来戦略に基づく戦略産業クラスター計画として、中国地方や四国地方での造船産業クラスターが計画されており、造船所なども拠点整備を進めています。こうした日本成長戦略や地域未来戦略に基づく国内投資を推進してまいります」とのビデオメッセージを寄せた。

次に金子恭之国土交通大臣と、公益財団法人日本財団の尾形武寿会長があいさつした後、第 19 回海洋立国推進功労者表彰式が執り行われ、3 団体、4 個人に内閣総理大臣賞が授与され、海の日記念行事 2026 開会式ならびに第 19 回海洋立国推進功労者表彰式は閉会した。

会場となった東京国際クルーズターミナルには、全日本海員組合と国際船員労務協会との共同プロジェクト「J-CREWプロジェクト～やっぱり海が好き～」のほか、日本郵船株式会社、株式会社商船三井、川崎汽船株式会社、独立行政法人海技教育機構、一般社団法人日本船主協会、日本内航海運組合総連合会、一般社団法人日本旅客船協会などが展示ブースを出展し、訪れた多くの人に、船員の仕事内容と魅力を発信したほか、グッズの販売、操船シミュレーターやVRゴーグルを使用したシミュレーション、制服の着用体験、船員の仕事紹介などを行った。

また、岸壁では株式会社商船三井所有の自動車運搬船や気象庁の海洋気象観測船「凌風丸」の船内見学会が実施された。

「海員だより」